

平成30年度 第6回 四万十町文化的施設検討委員会 議事録

日 時 平成31年1月22日(火) 13:30～16:30

会 場 四万十町役場本庁 東庁舎2F 町民活動支援室

出席委員 内田純一、谷口和史、池田十三生、山本哲資、林 伸一、川添節子、
青木香奈子、田邊法人、下元洋子、酒井紀子、刈谷明子、友永純子

欠席委員 林 一将、高垣恵一、中平浩太

事務局 熊谷敏郎教育次長

生涯学習課(林瑞穂課長、味元伸二郎副課長、森山典将主幹、松田佐穂主任)

図書館・美術館(谷脇八代美、山口香、山地順子、井上千紗、武内真紀)

1 開 会

(事務局)

定刻になりましたので、ただ今から平成30年度第6回文化的施設検討委員会を開始します。

内田委員長よりお願いします。

(内田委員長)

皆さん、こんにちは。新しい年を迎えました。今年もよろしく申し上げます。

本日は、すでにお手元にお配りした基本構想(案)について協議して、これを確定することが議題になっております。

岡本さんもおっしゃっていますが、(新施設を)作っていくプロセスが非常に大事だということですね。拙速に作ってしまうのではなく、プロセスの中心で住民たちが作っていくのが一番大事であって、その主体性と連続性をおっしゃっています。その間、私たちもワークショップを開かせてもらいながら丁寧にやってきたつもりです。もちろんまだまだ絞ってない点はあるわけですが、それらは今後の基本計画等の中でまた作っていく。そのようなプロセスがとにかく大切であると感じた次第です。

その中で、まずは基本構想をまとめ上げておきたいと、お願い申し上げます。

最初にですが、前回、実際に図書館で働いていらっしゃる方のご意見を伺おうという話がありました。図書館の方からも意見が出ておりますが、内容的に、構想の域をさらに超えて、計画の部分が大変多くございます。今回はその意見を協議するものではありませんが、基本構想を

中心に進めたいと思っておりますが、前回出た酒井委員の「現場で働いている人たち」のより具体的な思いは引き続いてこの委員会の中で検討していきたいと考えております。

2 議 事

- ・ 文化的施設基本構想の内容協議

(内田委員長)

では協議に入りたいと思います。進め方としては、プロジェクターの画面を見ながら、この場で直せる部分は（文言を打ち）直していってしまおうというふうに考えております。

では最初に、岡本さんから案全体を紹介していただき、議論を進めていきたいと思います。

岡本さん、よろしくお願いいたします。

(ARG 岡本)

皆様、本年もよろしくお願いいたします。

お手元に構想(案)が回っていると思います。前回の委員会で様々な意見が出てかなり盛り上がりましたが、そこで出た意見を踏まえて、担当課や内田先生と確認もして作りました。大体どういふポイントでまとめているかを手短にお話しします。万全を期したつもりですが、前回これは重要な議論をしたのに抜けている、という点があればご指摘いただきたいです。

では、構想(案)をご覧ください。

【文化的施設基本構想(案)の概説】

(内田委員長)

ありがとうございました。

岡本さんから、どこか抜けている点はないかご指摘いただきたいという話です。全体的には、時間も限られておりますので、この基本構想を見ていただきますと、第1章と第2章は町の方針や現状、この間、私たち委員会がやってきたことの経過についてですね。

第3章からビジョン・コンセプト・アクションとカタカナが多いですが、話し合われてきた結論をこういう形に表したという想定ですね。第3章以降がむしろ大事だと思いますので、おおよそは第3章に時間をかけて進めさせていただきたいと思います。

とはいえ、順番にやりながらです。

では、岡本さんがおっしゃった重要な点、ここが抜けているという点で、ご質問でも結構ですので、あれば出していただければと思います。いかがでしょう？

(刈谷委員)

質問です。3章のコンセプトの欄が「順不同で列記」と書いてありますが、「新しい施設づくりへの検討課題」には1、2、3、4、5と番号が割り振られています。これは重要度での番号

付けですか？

(ARG 岡本)

1-3のアクションプランは本日の議論を経て改めて順番を付けたいと思っています。

今回順番をあえて書かなかったほうは、「1」が大事という予断を皆さんに与えてはいけなかったなので、あえて「・」で括ったんです。

(刈谷委員)

では、番号を振った3-2は、数字順に重要度が並んでいるのですか？

(ARG 岡本)

どれも重要であることに間違いはありませんが、考えていく順番としてこうなるかと思っています。

別途また話があるかと思いますが、立地等を考えた時に中心市街地活性化や再生計画が別の検討として重要であると同っておりますので、そこが一つ決まってこなくてはということ。

あと、新しく出来る文化的施設だけが賑わっていることだけは避けなくてはなりません。周辺全体、あるいは大正や十和も含めて、地域全体が活性化してくることが大事だと同っておりますので、その中で段階的に流れる構造を意識しています。

ただし、これが絶対いい順番だと思っているわけでもないです。整理してきた中ではこの流れではないかという形です。

(刈谷委員)

分かりました。

それと、P3に「四万十町立図書館利用の現状と課題」に書かれていますが、課題を解決するためには、P10の「新しい文化的施設検討課題」の5の「職員体制」がすごく大事だと思っています。やはりそこで働く人たちの環境が確保されていないと。そこで動いていくのは職員の方なので、司書採用や、美術館も学芸員の採用などを、非常勤ではなくちゃんと構える。

瀬戸内図書館なんかは2代先の人事の担当候補を決めて運営されていました。その人材育成をちゃんと担保しないと、なかなか（利用者が）増えていかなくて、そこから広がっていくものがないように思いました。そこはちゃんとお願ひしたいと思ひました。

(ARG 岡本)

そういう意味でもP10の「職員体制の検討」、特に「運営方針」を明記できればいいと私は思ひます。

来年度以降の話だと思ひますが、図書館と美術館が新たに設立する際に運営形態をどうするか。いわゆる現状の直営方式が望ましいのか、指定管理者制度のような形がいいのか、中間と

して窓口を全面的に委託するという方法もあります。全く別の考え方としては、もっと町民主体の運営にする手もあります。

あと、広域的に連携していく。例えば佐川町や須崎市では新図書館の話が具体的に出てきています。そういう意味では、近隣の他地域とどう連携しながら運営していくか。この辺を考えながら、それを実現するためにはどのような職員体制が望ましいのか。そこから刈谷さんがおっしゃった雇用の問題に入ります。直営の下で正規職員を採用するのが望ましいのかなどを考えていく必要があります。

その辺を詰めていくと、公募をかけようとか、そこが段々決まってくると思います。

基本計画の中で施設の規模などが見えてきますと、最低限設置すべき人員がどれくらいかも見えてきます。委員会の最終的答申としてこのくらい（の人数）ではないかが決まればいいと思います。

（内田委員長）

ありがとうございます。

踏み込んで話をしましたが、P10は1～5の番号は優先順位じゃなくて、検討していく上で重要・必要な事項となっているわけですね。それぞれがどう構造しているかというふうに理解する。ですので重要な事項として挙げられているかが大事なんですね。

ありがとうございました。

他に何か抜けている点やご質問がございましたらお願いします。もちろん最初に戻って少し丁寧に進めたいとは思っていますが。

ひとまずよろしゅうございますか？

【反対意見なし】

（内田委員長）

はい。それではP1から進めていきたいと思います。

まず「はじめに」の段でお気づきのことはございますか？

（酒井委員）

すみません。そもそもの、これを聞いていいのかという質問なんです。

根本なんです、スケジュール予定を見たら、公共施設を完成させなきゃいけないのはいつになるんですか？

（内田委員長）

前にもお話しましたが、構想を受けて計画に入っていきますよね。ですので、予定としては、計画は次年度に委員会を立ち上げてそこで集中してやっていきますので。

(酒井委員)

30年度中に。

(内田委員長)

今日の最後にお話ししようと思っておりましたが、一度この構想(案)を確定させて、パブリックコメントでご意見を(住民から)頂いて、それらをもう一度集約して、第7回の委員会を3月に予定しています。3月に行われる委員会は、もう基本計画の第1回のようなイメージです。

ですので、構想については今日確定を予定しております。

(酒井委員)

基本構想を公開するのはHPでだけですか？

(事務局)

HPと本庁・各支局に冊子版を配ります。

(酒井委員)

町民の方が(基本構想を)見に来るのを待つのであって、こちらから学校なり関係者なりに提示することは無しですか？

(事務局)

パブリックコメントの形式上、そういうやり方になります。

(内田委員長)

では「はじめに」の段はこれで行きたいと思います。

次は第1章ですが、いかがでしょうか？

先ほどの岡本さんの説明では、「ギャラリー喫茶 556」もあえて名を入れたとのこと。当初は町立美術館のみ想定して進めてきましたが、「ギャラリー喫茶 556」も町の美術環境を構成する重要な一つとして位置づけようということですね。

(林(伸)委員)

今出た「ギャラリー喫茶 556」は民間施設になると思うんですが、(新しい施設が)出来ることによって「556」がやってきたことができなくなったりお客さんが減ったりすることを懸念して、考えないといけない部分もあると思います。そういう「556」との連携の話し合いはあるのでしょうか？

計画策定段階になってからの話になるのかもしれませんが、どういう意見があるのかを聞いてみたいです。

(内田委員長)

計画の段階で「ギャラリー喫茶 556」とどういう関係を築いていくかの協議は大切かと思えます。

この構想は、単に建物を建てるだけの構想ではなく、町全体の文化的環境を整える大きな構想でもあります。この段階で、その構築の一つとして取り上げておこうというのが主旨です。今言っていたことは今後また検討する必要があると思います。

(山本委員)

心配してくださるのはよく分かります。

「紐付き」になると動きにくいことが今までありましたので、今のままの状態で作らせていただいてもいいんじゃないかと。

ただ、話し合い次第でいくらでも協力体制がお互い取れると思いますので。

ある意味で自由にやれるポジションが必要かと。

(ARG 岡本)

そういう意味では、ここに記載してあることで常に意識することが、大事な目的かと思えます。

公共施設を作る時に注意しないといけないのが民業の圧迫にならないか、自由な住民活動の妨げにならないか。大概の場合は行政に悪気はないんですが、善かれと思ってるくでもないことをするというのはあるわけです。

「556」があることを常に意識しておくことが大事です。例えば今後美術館で何かやる時に、それが「556」にとっていいことなのかを常に意識できるように。そして場合によっては「556」と一緒にやることで、町全体としてのアート活動がより盛り上がる、それを考えてみると。

今の議論を聞きますと、新しい文化的施設だけで完結するアートイベントは好ましいものではないと思うんですね。何かある時には、できればそれは「556」に。大正でも十和でも展開する。それによって地域内を、外から来た人も、せっかくだから一泊二泊してあちこち見て、四十町全体でアート体験をしていく。そういうところに繋ぐために「556」を意識しておく。

窪川においてはそこを意識しておかないと、窪川に新しく出来る文化的施設と、大正と、十和で完結すればいいでしょう？ になってしまいかねない。それは好ましくないと思います。特に役場の担当者はずっと同じというわけではありません。担当は必ず変わる日が来ます。10年先の担当者がこれ（基本構想）を見た時に、当時の町民の皆さんと制作担当した役所の人間はそういうことを考えたんだと、きちんと分かるように、将来に向けて申し送りをする意味でも、明確に記載しておけるといいかと思えます。

あとは計画の中でももう少し具体的に踏み込んで記述をしていければいいかと思います。

(酒井委員)

個人的な意見になりますが、「四万十町立図書館の現状と課題」に「山・川・海・自然・人が元気です」とキャッチフレーズがあるにも関わらず、自然のことを包括した取り組みが見られてないんですね。同時に四万十町を流れる川、流域で繋がっているという意識付けも成されてないので、ここも課題の一つに入れてもらえると意識できていいかと思うんですが。

(内田委員長)

ありがとうございます。

単に施設の課題を並べるだけでなく、全体としての課題に町の目標を掲げているにも関わらずそこが充分展開していないじゃないかと。全体と施設の位置づけがもっと強まるようなことという意味で言えば、P2の第二次総合計画の中に入ってますかね？あるいはこちら辺に今のようなことを踏まえたらいいかということになりますかね？

分かりました。あとで検討することにいたします。

(ARG 下吹越)

P7～P8の「四万十町らしい文化的施設の課題」の最後の部分で「人と自然」というフレーズだけは出てきてますが、ここでもっと具体的に拾って反映できると思います。

今4点を課題として挙げていますが、町の課題と繋がるところで5点目に広げて整理できると思います。

(内田委員長)

酒井さんがご指摘の「四万十町らしい文化的施設の課題」の5つ目に出すことが考えられますが、大きな背景で、P2かP3にそういったことを書いておいたほうがいいのでは、ということですよね？そこのところが不十分だから、「四万十町らしい文化的施設の課題」ではこの点を大事にしましょうという課題になるわけですよね？

現状の前半部分が「施設」の現状と課題みたいにややなっているので。先ほどの話は施設というよりもソフトな部分ですよね？

(酒井委員)

そこのところを大事にすると結局は施設もこのようになるのかもしれないし。

(内田委員長)

もし加えるんだとしたらP2の1-2「社会課題」の、第二次総合計画の対応ではこういう五点上がっていますとありますが、そこに全体を通して弱い所があるということですよね。そこまで加えると細かくなってくる気もしますが。

(ARG 岡本)

あとはこの以下の5点のあとに「なお全体を通す課題として、山・海・川といった視点が欠けているのではないか」という指摘を追加した上で、課題が上がる以上はその対策が必要なわけで、P9ですね。「ビジョンに繋がるコンセプト」で町の将来像として「山・川・海・自然・人が元気です」を紹介しております。

ここを受ける形で改めて施設のコンセプトとしても「山・海・川」という四万十町が誇る「自然」がきちんとここに結び付いてくる、それが必要なのだという書き方をするようにしたいと思います。そうすれば、ただのハコの施設の話だけじゃない、そこを常に意識する必要があるんだと明確になってきます。

たかがその一言に過ぎないように見えますが、施設として山・海・川といった自然環境に配慮することが大事だと決まると、この先、基本計画を策定する際に、例えば四万十町らしい特徴がある本の集め方として山の本、川の本、海の本、山遊び、川遊び、海遊びの本はしっかり集めたいねという方向に話が広がる。そういう議論をできるようになると思います。

(内田委員長)

今の所、第1章までの話でしたが、いかがでしょうか？

【異論上がらず】

(内田委員長)

それでは、次は第2章からです。

全体を通してこの意見は入れておいたほうがいいんじゃないかとか、お気づきの方はいらっしやいましたら出してください。

(酒井委員)

ここにもさっき言った四万十町ならではの「山・川・海」という意見があったことを記述しておいたほうがいいかと思います。

(内田委員長)

そうですね。P6～P7からはまさに期待される役割と課題で、議事録・会議録でさらに細かく書いてあります。

先ほど文化的施設の課題で4点が出ましたが、酒井さんの発言による所をもう1点加えようかという所ですね。

(刈谷委員)

前後するかもしれませんが、P3~P4の「その他の文化的施設の現状と課題」で色々な施設が、おもに古文書や民具を現状どこにどう置いてあるか書いていると思いますが、教育的な意味での文化的施設と考えると、学校の中の図書館・図書室との連携も検討課題として挙げられると思いますが、学校の先生や図書室担当からの声で現状を少し入れてはどうかと思います。あるいは図書館から学校に向けての意見ですかね。具体的ではないんですが。

(内田委員長)

ありがとうございます。

おっしゃる通り、この委員会も、学校図書館・図書室の状況について充分に取り上げきれていないですね。しかし実際に構想や基本計画を作っていく上では、学校とは欠かせないですね。そういう意味ではそのものの意見をどういうふうに反映させていったらいいか。現状としてはそこを見てこなかったけれど、課題としては在るんだということですね。

そちらは後半に入れられる箇所があれば対応したいです。

(ARG 下吹越)

提案ですが、第1章で大きな社会情勢から四万十町に散らばる文化的施設の話と並べているんですけども、1章の1~3で図書館・美術館・その他の流れになってますので、学校施設との連携と課題を、一つ項目を増やして、図書館・美術館の皆さんがどのように連携されているのかの現状を加えた上で、整理するのはどうでしょうか。「その他」の枠に組み込むとくしゃくしゃしてしまうかと思うので、その分についてはやはり別立てでしっかりと明記していくのがよいかと。

十分な調査ができていないとのことなので、この部分はさっきの5項目と同様に今後意識していくべき課題として簡単にまとめておいて、調査も踏まえて、基本計画で皆さんに議論していただくという書き方がいいと思います。

(ARG 岡本)

そういう意味では高校までを含めるといいんじゃないでしょうか？

幼稚園・保育園、小中高。高校生は特にワークショップでもたくさん発言していただきましたし、皆さんも窪川高校と四万十高校の二つに通っているお子さんたちは大事にしなきゃと意識はあると思います。

それと、現実的に上がってくるのは、新しい文化的施設はこうであれば嬉しいという声は高校生の子どもたちからかなり寄せられました。県立高校であります町にとってはかなり重要な高校という議論はありました。こういう所は委員会の中で全て議論しきれていませんが、お子さんがいらっしやらないご家庭や、子どもさんが大きくなった町民さんに対して、そこも大事ですよ、とお伝えする上ではしっかりと触れておくのはいいと思います。

実際に公共図書館の世界では、学校図書館に対してどういう支援をしていくかは非常に重要なテーマです。これは十和や大正を考える時にも確実に重要なテーマにもなります。

十和の場合、まともな図書館分館と言える状態ではありません。ではまずせめて四万十町全体としての基本計画が出来上がっていく中で、十和地域の学校と学校図書室に対してどのようなことをしていけるかは大事なテーマです。そこへの布石に繋がるので、「学校」を一項目、別立てにして、できれば幼稚園から高校まで。ざっくりとした現状把握にはなりますが、大切な連携パートナーとしてここに掲げておくのが一番しっくりくると思います。

いかがでしょう？ 先生。

(田邊委員)

有難く思います。

理想は図書室に専門の司書がいて、その方から専門知識を教育の場に還元することですが、当校も含めて司書がない高校が増えてきているのが現状だと思います。

そういった、学校の中の文化的な分野もありますので、その専門家からの話も伺いたいかなと思います。以上です。

(酒井委員)

ちょっといいですか？

全く知らない分野なので教えていただきたいのですが、介護の分野とかで。

四万十町は高齢者が多い町じゃないですか。宅配と兼ね合わせて本を貸し出すサービスとか、何かで聞いたことがあるんですが、そういったことは課題に含めなくていいんですか？

(内田委員長)

今の点は四万十町に暮らす全ての人に向けた多様なサービスの展開が必要だという意味では、介護や病院が抜けているとかいうことではなくて、逆に入っていると思うんですね。

高校は一応、教育機関ということで載せるのであって、酒井さんがおっしゃるところが抜けているわけではないんです。

(ARG 岡本)

最後に一文程度、「上記に限らず、多様な施設の現状把握に引き続き努めて、基本計画を検討していきます」と加える程度でないと。

酒井さんのおっしゃるようなことは、他自治体では結構やられています。病院訪問とか。最近明確に効果があるんじゃないかとのことで、今は国を挙げてキャンペーンになりつつあります。高齢者施設でお年寄りに対して読み聞かせをすると認知症予防になるとか、実践する自治体は増えてきています。

四万十町ではまだそこまでの議論はできていませんが、そういったことも基本計画の中で考えていくのはいいと思います。基本計画の中でも、多様な連携の形はどういうものが言えるのかが議論できると思います。

「気づき」がそこまで来ていることは素晴らしいと思っています。

(内田委員長)

ありがとうございます。

他はいかがでしょう？ もう少しご意見あればと思いますが。

【意見上がらず】

(内田委員長)

では第3章に移りたいと思います。

ビジョン・コンセプト・アクションプランで、まずはビジョンですね。ここはいかがでしょう？ 前回お話しした時には色んな地域的フレーズが出ましたが。

(酒井委員)

よろしいでしょうか？

最近、個人的に地域の人と話す機会がよくあります。

その中で、地域の人がしたくてもできないことに「発信」があります。文章の中に「発信」が一つあるといいと思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

実は私も、岡本さんとの話の中で、ここに住んでいることの価値や意味を、もっと多くの外に向けて発信することで住み続ける、プライドを持つというんでしょうか、そういう論議をしていたところです。

(ARG 岡本)

そこはP8の「文化的施設の課題」の最後のほうに反映されているんです。「人々の情報を広く発信していくことで」と課題として書かれています。これは課題にしていかなきゃいけないです。これを受けてビジョンに、場所の定義として、皆さんが「寄り合い集い交流をし、かつそれが発信される」というニュアンスを補うと、全てが上手く伝わる気がします。

そうすると新しい文化的施設で行われる活動は、皆進んで誰に断るわけでもなく、自分たちの暮らしの一環としてどんどん発信していく。むしろそれが当たり前という考え方になる。

ただ、そういうのは常に開かれた場でないといけない。特定の人のための場であってはいけない。そういう考えにきちんと繋がっていくと思います。

(酒井委員)

開かれた場というのはすごくいいと思います。

(内田委員長)

ビジョンの文中にその「開かれた場」も入れてみますか？

「人が集まり、発信する、開かれた場」というふうに言ってみますか。

(ARG 岡本)

「町の文化が流れ、人に開かれ、人が集まる場」と。「発信」は下記詳細文に入れる。

イメージとしてはまさに川の流れのように、そこは常に町の文化が流れている。同時にそこは常に開かれている。だからこそ文化が滲えられていて、人に開かれているからこそ人が自然と集う場になるという感じですね。

(内田委員長)

ありがとうございます。

おっしゃるようにビジョンは非常に大切になりますので、我々が何を大切にしてきたかというイメージをね。

では P9 にコンセプト・ミッションを出していただきましたが、そちらのほうはいかがでしょう？ 先ほどご説明いただいたように、人・自然・文化と合わせて「やわらかい社会」という言葉は多様性を持っている、あるいはユニバーサルに、いつでも誰でもどこからでも、という、そういうスローガンですね。

多様性という言葉も大事になってきますよね。ガチガチに作ってしまったんじゃあとから自由に動きにくいので、状況に合わせて多様に変化していく、柔軟性も含まれていました。

P9～P10 にかけては、特にアートに関しての記述がありますが、いかがですか？ アートはすごく大事な視点だと思いますが。

(山本委員)

昨日、高知県立美術館で現代アートを見てきたんですよ。そしたらもう、時代や世界が違うことを痛感させられました。ぜひみんなで見に行きたいと感じました。

文化とは何かという中で、世界的な芸術と、日本を中心に今進んでいる文化と、四万十町でどういうふうに繋げていくかで悩んでいる最中ですので、これについては若い人たちの意見で進んでいただけたらいいと思います。

(内田委員長)

入口という意味合いでしたが、今のお話を伺うと、今より先に何があるのか、入口だけでいいのかという話になっちゃうので、そうではなくて、入口でもあり未来にも届くくらいの。

最先端のものに触れるというのは、ずっと出ていたキーワードでもありますし。

(酒井委員)

「アート」だけだと機能しないことはありませんか？

アートとクラフトとサイエンスと三つないと機能しないことがあったりして、アートだけに特化したコンセプトでいいのかな？ って気もします。アートはもちろん大事ですが。

(内田委員長)

私もそれは感じていたので山本先生に伺いましたが、その通りですね。

やっぱり従来の町立美術館をどうしていくかは基本にありますので、そこは大事にしたいです。

(ARG 岡本)

「アート」は若い人向けにやわらかさを出そうという安易な発想があって書いた部分もあります。

今までワークショップの中で高校生から上がってきたのが、美術品鑑賞だけではなく、作品制作、創造活動のアトリエという声もあったので。この子たちからすると「美術」は硬い言葉なのかなという印象を受けまして。例えば瀬戸内のアートイベントとか、そっちのほうですつと入っていけるのかなと思って、あえて「アート」と書いてみたところはあります。

思想ではなく、いささか打算めいて、若い人たちにも興味を持ってもらえて、ただの美術品を展示するための美術館であなたたちには関係ないなんてことはないんですよ、ということを表現したかった。

(酒井委員)

すいません。ということは P9 の「文化的施設の中を流れるコンセプト」に書いてあるこの文言は、四万十町立美術館に関してということになるんですか？ 文化的施設全体のことなら、ここは誤解されるというか、アートが前面に出過ぎている気がします。

(ARG 下吹越)

おっしゃる通りコンセプトの部分は文化的施設全体のものでして、第二段落で町立図書館を載せて、第三段落で町立美術館を載せてきました。基本はここがベースにしてあります。

そこにさらに、岡本から話にあったように、これまでのワークショップで高校生たちから出てきた要素を足したほうがいいんじゃないかということからこの一段落を追加したという経緯があります。なので決して町立美術館のみに寄ったコンセプトする意図は全く無いです。

そこら辺を丁寧に説明しておかないと誤解されるというご意見はもっともですので、もう少し文章の入れ方と見せ方を工夫できるとは思います。

(下元委員)

そうですね。この文書を見るのはやっぱり若い人たち向けで、「アトリエ」になったらアートだけじゃなくて、お菓子作りやモノ作りをする場もそう呼ばれますし。

私は町内で店を開いておりますが、子どもたちが入ってきて自由に作ってもらえる環境を作ると、それを知った子どもたちが、わあっと来ます。モノ作りがすごく好きな子どもたちが町には本当にたくさんいるなと感じています。

山・川・海があるってことは、その田舎でいかに過ごしていくかを子どもたちも考え工夫しながら生きてきているので、アートの表現を取り入れた方向性を含み、サイエンスも大事だと思います。モノ作りも、これからの子どもたちに自分の持っているものを伝えていくべきであって。それができるようになると「直す」ということをできるようになって、物を大事にすることに繋がります。文化の中にそういうのを組み込めたら最高だと思います。

「アート」ってちょっと広すぎる概念なので分かりにくいかもしれません。

(ARG 下吹越)

書き出しを「美術」「アート」でやっているから、よけいに美術館みたいなものなんじゃないかと思わせてしまうと。

ここに書いてある内容は、子どもからお年寄りまで誰でも使える町のアトリエで、どちらにも寄らない、まさに文化を発信していく、文化が創り出される場所を目指したいということをお願いしたい段落ですので、「美術」「アート」という言葉は残しておきつつ、「町のアトリエ」が入っている段落についてはもう少し書き方を工夫できるんじゃないかなと思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

自由な創造空間、でもありますよね、アトリエと言うと。しかもその中に思想めいたものもある。「物を大事にする」とか。大事な発言を頂いたと思います。

(酒井委員)

思想や思索、深く考える場所という意味でも使いたい名称ですね。

(内田委員長)

創造活動そのものがそういう要素を持っていますよね。

アートとサイエンスとクラフトの三つが一体のものとして在る・できる、自由な空間ということですね。それを「町のアトリエ」と呼んでみようと。

それこそ極端な誤解がなければ、少し加筆するにしても、大きくはこのままでいいと思いますが。

(刈谷委員)

第三段落で別立ての「今まで四万十町立図書館が役割を果たしてきた（中略）伝統的図書館の役割に加え」の部分ですが、その伝統的図書館の要素をどうやってさらに改善していくか、

今持てる強みをどう強化して広げていくかという機能的な役割について少し書き加えたらどうでしょうか？

「～に加え」という書き方だと、既存のものはもう充分にできているというふうに読めてしまうと思うので。

(ARG 岡本)

そこはもういい、という話じゃないということですね。伝統的図書館の要素をさらに充実・強化する、というトーンですね。このトーンの読み取り方だと誤解を招きうるということですね？

では「伝統的図書館の要素をさらに強化し、同時にこれからの新しい～」として、従来の役割も今まで以上により良くしていきます、さらに新しい挑戦もします、とさらに温故知新な部分を出す。

(内田委員長)

そういうことですね。はい、ありがとうございます。

では一旦休憩をさせていただいて、文面の整理もしたいと思いますので、10分後に再開したいと思います。

【10分間休憩】

(内田委員長)

それでは協議の続きをしたいと思います。

協議の前半の最後でアートのことが話題になっていましたが、窪川高校校長の田邊委員によると、美術という絵を描くことに収斂されてしまう、音楽活動や演劇などの表現活動に取り組んでいる子どもたちも多い。窪川は演劇やジャズが盛んな地でもあるので、アートへの理解を広げる形で考えておく必要があるんじゃないか、という発言をしたかったと言って、公務があるので帰られましたけども。

(酒井委員)

「芸術」ですよ。

(内田委員長)

そうです。「芸術」です。

もちろんその場になるという意味では排除するわけじゃないんですけど。

ではもう少しP10～P11を話し合っ、そして全体を振り返ってみたいと思いますが、いかがでしょうか？

とりわけ、アクションプランですね。ここはいかがでしょうか。特に（項目の）順番は決めていないし、これまで出てきたものを整理したと、岡本さんから説明ありましたが、改めて見ていただいております。ここは特にこれからやっていく部分ですので、基本計画に向けて自由に話し合ってもらっても構わないところです。

例えば私は、冒頭に住民主体になるのが当たり前だという話がありましたが、図書館なり文化的施設の応援団のような方々を育てていく仕組みをもう少し持ったものにしたいと考えています。この場には若い方々もいらして、そういう方たちは中核になっていくんだろうと思った時に、アクションプランで検討していく必要はあるんじゃないかと思いました。

（酒井委員）

本当に、先生がおっしゃったことを皆さんに言いたかったんですけど、人づくりとか人育てとか、それに具体的に組み込んでいただかないと。全て外部のコンサルに頼んでいては町の中で人が育たない。

前に行った瀬戸内図書館があんなに立派なのは、とにかく歴史があり、長い年月をかけて地域の人たちが取り組んできた成果であって、パッと出来たわけではないと聞いたら、今すぐにも、文化施設を大事に思う人たちの団体を作り、その団体をみんなでサポートする仕組みが急がれると思います。

（刈谷委員）

それに関連してですが、サポーターのような活動をされてきた方はある程度お年が上の方が多という印象があります。専業主婦や子育てを終えられた方、退職された方といった、時間とお金に余裕がある人たちが主体となって、これまでの、私たちが受けている文化を享受する土台を作ってくれたと思うんですけど、これから新しい人や若い人に関わってもらおうと考えると、雇用を担保するというか。全てボランティアでは、若い人や子育て中の人は難しいことです。ある程度は雇用になるとか、積極的に関わられる条件を整える必要があると思います。お金が全てとは言いませんが、子ども連れで何かできるとか、託児所を設けるとか、その人自身の生活を支えるものが必要だと感じます。

（内田委員長）

ありがとうございます。

ここは計画に向けての関連課題という気もしますが、1-3がまずコンセプトを実現するための具体的なアクションということで考えてはいます。

今言っていたことは検討すべき課題の大事なテーマになりますね。

（酒井委員）

岡本さんがおっしゃるには、（課題には）あえて番号を付けなかったということですが、このアクションプランを機能させて結果を出すためには、人ありきの話なので、一番目は絶対に、ここで動くことのできる人材を育てることが急務かなという気はします。

行政講座だとちょっと。この先10年ずっと残って、新しい人をどんどん育てていく団体にしたいわけで、それはいつまでも行政に紐付きってわけじゃなくて。もちろんいずれは独立するなり、対等な形で付き合っていける関係を築けるようになっていう、そこまでの予算はどうなんですかね？

予算なくてもやっちゃおうになると、サービスとかですごく助成してもらわないと。

四万十町は広すぎます。会議室を借りるのにもお金が要るし。今もみんなで集まるためにいちいち窪川に来るのを強制されてるじゃないですか。それに現代人は忙しすぎるんです。

結局、離れていても会えるように、連絡が取れるように、そこまでのハードは整えますよとか、お金は出せなくてもそこまでカバーしてもらわないと。全部をやれって言われても追いつかなくて。

（内田委員長）

それはもう少し具体的な話ですね。今はどういう記述にしておくかという話ですが。

（ARG 岡本）

酒井さんの後半の話で言いますと、第2章の終わりのほうですね。

議論は上がっていましたが、ここでは特定の技術に絞すぎるのもよくないと思って留めた書き方にしました。最新技術の導入の検討や、施設同士の連携の可能性を探っていく、というところで表現しています。

今出ているのだと、「zoom」というオンラインソフトが行政でもかなり採用されるようになってきて、圧倒的に便利になっています。そういったもので三地域間が繋がれている、オンライン遠隔会議がパッとできるという環境を実現していくのは、基本計画の中でもかなり具体的に書き込んでいくのはどうかなと思います。

あと、前段のお話で言いますと、そこは難しい話だと私は思います。

つまり、町民の主体的な住民活動は行政の計画に規定されていいものか？ という結構大きな議論があって、行政サイドから考えると非常に慎重になります。結局行政がお手盛りでそういう住民活動を作るかのように見えてしまうのは、まともな役所であれば避けたがることです。

同時に、依存関係を生みやすいということがあります。

これはNPOなんかによく見られる構造ですが、役所の仕事をただ代替するだけの関係。あと、今まさにおっしゃったような、補助金・助成金漬けになって、財形的自立性を失ってしまうこともあります。

今は協働という言葉もあるので、ぜひ町民の皆さんから協働的な活動が生まれてくる。だから、新しい文化的施設を良くして存分に使い倒す会みたいなのが出来てくるのが一番いいで

す。弊社もこういう市民協働の取り組みをお手伝いするんですが、その時に、いくつか大事なポイントがあります。

一つは、イコールパートナーシップ。完全な対等性を持つ。決して役場・行政がお上ではありませんし、かといって町民の皆さんが上というわけでもありません。対等な立場でお互いに接して、相手をリスペクトし合うこと。

例えば行政や図書館のカウンターで職員に罵詈雑言を浴びせるとか残念なケースもあるわけですが、そういうのは本来あってはいけないんです。もちろん行政側も町民を見下すことがあってはいけない。何よりもまず同じ町の人間として尊敬し合う。

二つ目は経済的自立性です。決して行政からの補助・助成に甘んじない。まともな NPO や NGO 団体だと、行政からの補助金額は全体収入の 20% 以内に収めるのが一般的です。国際的に活躍している NGO 団体だと 20% 以上受け取っていると信用を失くします。例えば日本国から 20% 以上の助成金を貰っている団体は、国際社会では日本政府の代理機関だと見なされてしまうんです。そうすると、どうせこの人たちは日本政府にとって都合が悪いことには蓋をしちゃう人たちだと思われちゃう。これはどこかに目安が必要です。

最後、三つ目は、役場の人も組織に入れることが大事です。上手く行っている組織は大概ここできています。有名所ですと福井県鯖江市の「鯖江市図書館友の会」。ここは市長以下 700 人の会員の内 300 人くらいは役所です。役所の人の参加率、めちゃくちゃ高いです。そして業務時間外に役所の人も一市民として積極的に参加されています。そういう形になると、「行政が」とか「私たち町民だから」とか言うことがナンセンスになるんですよね。大人の部活動としてやる。そうすると本当に活動が持続します。鯖江市はもう 20 年以上続いていますし、2~3 年前にもライブラリー・オブ・ザ・イヤーで選ばれ、その中でも市民協働活動が高く評価されています。

同じように瀬戸内市も、2010 年に市民が請願を出したのがきっかけです。そこから新市長が誕生しました。実際に地元の方の話を聞くと、約 30 年間の活動だそうです。住民組織側の代表さんによると「私が嫁に来た時からやってる」ということでした。やっぱり上手く行っている所はそのくらいかかります。

今お話が出たように、今からその活動をやろうというのは本当にいいことです。それが熟成してくるのは多分、酒井さんたちのお子さんが後を継ぐくらいの頃に初めて完成されたものになるんだと思います。ただ、始めるのに早いに越したことはないです。

その時にぜひ心がけていただきたいことは、これからサポート組織を作る時に、図書館サポーター部と美術館サポーター部を絶対に分けないことです。新しい文化的施設全体のサポーター活動組織にすること。

それと、団体参加を絶対に認めないことです。全員、個人参加でやりましょう。大体もめるケースはここです。特に図書館の場合だと読み聞かせボランティアサークルなどがすでに存在し、サークルとして団体加入したいという声は必ず出ます。しかしこれを受け入れてしまうと、特定の派閥の票が多くなってしまいます。四万十町のような比較的人口規模が小さい自治

体でこれをやると、特定団体の力が強くなってしまいます。そうすると必ず空中分解するんです。

だから、全ての人が、何かの団体を背負ってでも構いませんが、「個人」としてご参加いただく。そして「個人」として一票を有して意見を民主的に決める。そういう形にすると上手くいくんじゃないかと思います。

昨年12月にオープンした宮城県名取市という被災自治体の図書館でも、オープン約3年前から、ひたすら市民の方と勉強会をやって先日オープンしましたが、開館日から3日間のイベント中、館内案内など、本来なら市職員である図書館員が対応するところを、全部市民の方がやってくさいました。オープニングイベントも市の主催とせずに、名取市図書館と名取市図書館友の会の共催という形でした。本当に市民に開かれた市民のための施設としてオープンしました。

私も正直、今までいくつかそういうのを仕掛けてきましたが、市民団体が成熟するには3年くらい必要です。これから先、順調に進んで開館の日を迎えるまでの年数を数えますと、まさにこのタイミングで市民団体を作るのは非常にいいタイミングではないかと思います。

(酒井委員)

ちなみに、今の四万十町の行政内部で、例えばNPO団体の代表には情報がたくさん入りますよね？ あなたにはこういう補助金が合っているから申請してみても？ みたいになっているようですが、四万十町ではそういう情報提供はあるんですか？

さっき言った20%以内のものはやはり欲しいと思うんです。全くなしでやるのは、さっきも言いましたがきついで、補助金なりサービスなりを受けられる情報開示は、ありますか？

(事務局)

NPO団体に個別で補助金の案内を出すのかはこちらも把握してないです。関係のある団体に補助金を紹介するケースはあるかもしれませんが、四万十町内全体のNPO団体を調べてそういうご案内をすることはあまり聞いたことがないです。

区長会などで、区長の皆さんには、四万十町ではこういう事業や利用法がありますよ、と言うことは例年やってはいます。

(酒井委員)

その管轄部署はどこですか？

私たちがこれから図書館の会を作るとして、相談したいじゃないですか。ここに合っている案件はないかを聞きに行きたい時に相談に乗ってくれる部署はありますか？

(事務局)

直接的には企画課になります。企画課はNPO認可についてもやっている部署ではありません。

ただ、法人化していなくても NPO はできるので、自称 NPO の団体もごぞいます。

(酒井委員)

じゃあまずは企画課に相談に行き、私たちはこういう活動をしたいのでいいものがあれば教えてくださいという関係性が出来たらいいということですか？

(事務局)

文化的施設関係であれば、ぜひとも生涯学習課にご相談いただければ。その分野についてはご相談に乗れると思いますので。企画課にそのまま相談するよりは、生涯学習課のほうに相談していただければ、もっとスムーズにいくケースもあろうかと思います。

(酒井委員)

分かりました。ありがとうございます。

(ARG 岡本)

今の酒井さんの疑問は、私は、図書館としてはとても大事なことだと思います。

それこそ図書館で聞くべきです。

図書館と図書館職員は、レファレンスという、住民の皆さんから「こういうこと知りたい」と言われたら答える義務があります。それは図書館法にも明記されている、図書館の根本的役割と言っていいです。

ですからむしろ、担当課より図書館のほうの方が分かってないといけませんし、図書館の本来の能力から言えば、今、四万十町役場として持っている情報以外に、例えば高知県でこういう補助ありますよ、十和だったら新谷さんがそういうのやっていますよ、と、一緒に探して提供する、それが仕事なんです。

図書館員の皆さんは「そんなこと聞かれても困る」と思っているかもしれませんが、それを問うようにならないければ図書館は出来ません。

住民の皆さんが図書館を使い倒す勢いで「教えて」「一緒に調べて」と言えば、図書館職員はめきめきとその力量を上げます。これがさっき言った瀬戸内市や鯖江市や伊万里市、図書館レベルが高い自治体の特徴です。

人は問われないことは調べないのでなかなか分かりません。でも町民の皆さんがありとあらゆるよろず相談事を持ち込んでくださると、調べることにに関して図書館職員は十分に訓練されています。そうすると一緒に調べていくらでも考えることができるので、そういう使い方をすると図書館は大きくレベルを上げるはずです。

(酒井委員)

すごく大事な話だと思うので、そこを検討課題の中に入れることはできますか？

(ARG 下吹越)

そこがまさに「やわらかい社会を作る」というところで、普段の町の暮らしや生活の中から町に関わろうとした時に、文化的施設が入口になっていくというコンセプトに込めたことなんです。

それを実現するアクションプランとして、町のサービスで広い情報と人を繋げていく。そのために人材の確保や教育が今後具体的な検討として進んでいくと思うので、ここのアクションプランに今の議論のエッセンスを踏まえたフレーズを入れるのはどうかなと思いますが。

(ARG 岡本)

P10～P11の「そのために、文化的施設はやわらかな社会参画の場となり、人々の生活の豊かさに繋がるようなプログラムを提供していきます」という箇所ですね。

今言った図書館のレファレンスがプログラムそのものです。町民のあらゆる「知りたい」に、図書館が一方的に答えを出すのではなく、協働の観点から言えば、手下ではなく丸投げするんでもなく、一緒に調べて一緒に答えを出すことに伴うようなプログラムを作っていくというのは、一つの例示としてここに入れると分かりやすいんじゃないでしょうか？

(酒井委員)

問いを上げていいののかも浸透してないわけで、そこを公に出してもらえたら。

テレビとかではきっとみんな見たことありますよね？ 都会の図書館の司書さんに聞くと、就職したかったらその職業の資料を全て出してくれるとか。それを自分の町でしていいのかが浸透しきってないと思います。

(内田委員長)

これからそういう文化的施設を目指そうということですよ。

今、岡本さんがおっしゃった、人々の生活を豊かに繋げるプログラムのイメージですよ。ここが実は非常に大事なので、下に具体的な何かを書いておいたほうがいいんじゃないかということですね？ 困ったら文化的施設に行こう、みたいに。

本当に、困ったらそこに行けば、情報がある、人がいる、そういう場になることがみんなの社会参画の機会を提供している。

ただ、もう少し話を戻しますと、具体的なアクションプランとして、例えば項目を一つ加えらしたら、イコールパートナーとしてのサポーター制度を研究するとか検討するとかですね。そういうことが必要ですよ？

施設を作っていくプロセスと並行しながら動いていくことが必要だと思います。

(酒井委員)

この場で作ったらだめですか？

誰かが言い出すのをみんな待っている感があるので。今日まで委員会 6 回やってきたけど結局作ってないわけですから。

(ARG 岡本)

運営ノウハウならいくらかでも提供します。

先日作った、名取市図書館友の会では、結成式で 100 人の会員を集めて 500 人くらい。一人 1,000 円くらい会費を頂いています。行政からの補助金は一切なしです。名取市市長もその場で会員になっていただきました。私も会員です。市外の人も対象にしています。

自分たちでお金を回せるところまで育っていくと、多様なことができますし、絶対面白いと思いますよ。

名取市の場合はそういう活動が下火だったんですが、震災で数多くの方々に支援を受けたのでいつか自分たちがお返しできるようにとの思いが高まって、そこまで来ています。ちなみに協働代表をやっている子の一人は高校二年生の女の子です。

先日オープンした福島県須賀川市でもそういう会を作りましたが、結構な小中学生が参加してくれて、オープニングイベントでフライヤーやチラシを配布したのは全部小学生です。自分たちで仕掛けたことですが、正直感動しました。

市民が自分たちの施設を自分たちで運営している。役所もちろん頑張っていますが、やっぱりこういう施設は市民の活躍の場なんだなと痛感しました。

これは町のこれからの学びの環境を考えていく上でも、子どもたちにそういう体験をさせることってとても大事ですよ。そこはぜひ一歩踏み出していただければ。いくらかでも応援いたします。はい。

(谷口委員)

具体的にはどういうことをやっていけばいいんですか？

(ARG 岡本)

それこそ、この指止まれ方式なので、まずは関心ある人集まれーってやって、あとは簡単な規約を作って、会員制度の大枠を決めます。ご入用でしたら名取市の時に資料を集めたので、提供します。そこは上手く行っている所を参考にさせていただければいいんです。

あとは活動を決めます。ポイントは、お忙しいとは思いますが、月一日、必ず活動日を決める。来れる人はとにかく来る。例えばみんなでパブリックコメントを書いてみよう、勉強会をやろう。あるいは単に、今日は大人だけの飲み会でいいや、とか。とにかく月一、必ず集まり続ける。

ただしその時に、来られない人のことは気にしない。これを気にし始めると組織は崩壊します。だから、来る・来ないは自由。でも前回来られなかった人が気まずくて来なくならないように、様々な名目で集まり事を作っていくと、あとは自ずと進みます。

「私はこういうことがやりたいから一緒にやってくれない？」という人が出てきますから、そこもまたこの指止まれ方式で。大きく集まった中から小グループが生まれます。

みんなと同じ方向を見てやろうと思わないで、でも月一回はみんなで顔を合わせようねという機会を作るのが、成功のコツだと思います。

(内田委員長)

そういう動きが出るから、そこを援助するアクションを起こそうよ、という一文を入れておくことは大事ですね。

ありがとうございます。

あとは、P10 はいかがでしょう。アクションだけじゃなくて検討課題。とりわけ町のですね。さっきの話も含めていかがでしょうか。

実際に基本計画を想定した時に、この検討していくべき課題がどういうふうに反映されるのが一般的なのかですが。具体的なイメージですよ。例えばそれぞれに部会が立ち上がるのかとか。

(ARG 岡本)

施設が開館するまでどれくらいの時間をかけていいかも考えますと、基本計画は施設の設計をするに足る事項を最低限決めきることだと思います。

設計するのに普通1年はかかります。規模にもよりますが、施工・工事期間が、この人口を考えると1,000平方メートル前後が一般的な話ではあります。確定ではないですが。仮に1,000平方メートル前後と見なせば1年間。

この場合は現在の施設があるので、移転、搬入、システム導入の準備等に、どんなに頑張っても3ヶ月くらいかかります。

つまり2年半くらい、施設がオープンするまで、余裕を見たらかかると思っているんじゃないかと思います。計画が出来上がったあとでそのくらいかかると踏んでおかないと厳しいかと思います。コンサル的に普通の見方で言ったらそのくらいです。

そう考えると、その間にできることがあります。一番おススメは、その時にサービス計画や管理運営計画というものを作る。そこでより具体的に何をするかを決めていく。

基本計画はあくまで設計をしてくださる建築士への申し送りみたいなもので、町民の総意としてこういうことがしたい、こういう機能が欲しい、ただし最終的に広さはこのくらいで収めて、費用も大体このくらいで収めてくれないと困る、というものが書き出されたものです。

それを設計者が実現していくわけですが、そのプロセスの中で並行して、こういう機能が実現することが決まってきたから、こういうサービスを提供する場で在りましょう、そのためにこういう人材育成をしましょう、市民団体はそこにこういう貢献をしましょうと決めていくのが望ましいと思います。

西ノ島町のコミュニティ図書館がそういうやり方でした。施工期間が決まっていたので、並行して片っ端から具体的な計画を書き続けた感じですね。全てが開館時に実現するものではなく、これから何年かかけてここに書いた計画を実現していくというふうにしてあります。

西ノ島町に確認は取っておりますので、あとで担当課に渡しておきます。

(内田委員長)

ありがとうございます。

今回は基本構想で、最後にアクションプランと今後の検討課題を書くわけですが、どこがどう動いていくのかが具体的に想像しにくかったので、今お話を伺いました。

ハードと合わせてソフトも併せて計画していくことが大事だし、そういうことになるんじゃないかな。

他にお気づきの点や、全体を通してご意見ございましたら出していただいて。

(酒井委員)

すみません。三つほど細かい点が。

一番が立地の検討ですが、これはもう決まっているのではないんですか？

(事務局)

立地については、12月議会で副町長が、議会の全員協議会や一般質問の中で、旧役場跡地は「有力な候補地の一つ」という位置づけで町は考えていると答弁しています。それを踏まえて、「中心市街地活性化基本構想」を作成し、この3月までにパブリックコメントを出しているんで、最終的にはそれを受けて決定する方針で考えています。

「中心市街地活性化基本構想」は窪川だけでなく大正・十和地区の三地区の現状と課題を踏まえてゾーニングする作業をしております。

ですので今は、旧庁舎跡地で決まりというわけではないです。

(酒井委員)

ありがとうございます。

すみません、あともう一点。

P9のビジョンに繋がるコンセプトの中で、割と美術館寄りに見られがちな点。

それと、私の中でも解決策が見当たらないのでどうしたらいいか全く分からないんですが、郷土資料館です。郷土資料館の影がものすごく薄く感じます。

岡本さんたちが、わざわざ出して意識づけるっておっしゃってたんで、郷土資料に関して、もう少しパンチの効いた感じで入っていくと、揃ってる感があるのかなと思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。

要はそこに眠っている史料をもっと活かさないかということですよ。十和にも大正にもそういう資料が眠っているわけですから。それを生かしたプログラムが出来ないかはあると思うんですよ。

ただ、郷土資料館そのものをどうするかとなると、構想に入りきれないので。

P9の中に「地元の郷土資料を活かした」という文言を盛り込むことはできますよね？

町全体の文化的サービス、文化的環境が、基本構想では大事ですね。

決して建物だけではないよと。あるいは建物の位置だけでもなくて。その建物が他の施設とどう連携して、全体の文化的環境をどう良くしていくかが基本構想の一番大事なところだと。

(谷口委員)

それは一番最初に出てきた大きな課題です。

この会が起ち上がる前に、高垣さん、山本さん、林さんたちと一度集まって、この構想の話をして、そこで全体をどう捉えるかは大きなテーマでした。

ただ、あまりにも大きいので、そこを分けていかないと。今、非常に必要なことと、必要だけどもあとからやることと。

例えば学校を改修してゆくゆくは（郷土資料を）時代別に集めていくとか。

今は煩雑に扱われている部分、必ずしも大事に置かれているとは言えない部分があるわけですよ。それをもっと移管して集約する拠点を将来的に作る。そのためにはまず図書館と美術館を整備して、そういう文化も併せてその次にまた歴史の感じられる文化を提案していけば、という話で、今の形になった。

(酒井委員)

今思いましたが、そもそもが廃校を利用して郷土資料館学校みたいなのを作って、一か所に集約して、そこにカフェも併設して、その施設を文化的施設で紹介するというやりとりでもいいのかなど。

(谷口委員)

そうそう。要は連携。ネットワークにして、今作ろうかって言ったサークルが複合体になって、結集して、町全体の文化的雰囲気を作っていけばいい。そこにスポーツもあり文化もあり。スポーツも合わせた文化を作っていけばいい。

そういうふうにスポーツも一つの文化として取り組めば、四万十町域で発信ができる。そういう意味で僕らは桜マラソンに力を入れている。地域それぞれのスポーツもやっていってる。

四万十町には四つのスポーツ団体がありました。それをやっと10年かけて東西で二つにした。人口が減ってきたらこれがまた一つになるけど、人口減に応じてやらないとこれがまた難しいというね。

僕らは体育・スポーツ関係ではそういう構想を持っているわけです。

できるできないは別で、将来こうあるべきじゃないかという姿は、僕らの中では描いてるつもりです。

(酒井委員)

じゃあこの案の中には郷土資料をあまり強調しなくてもいいということですか？

(内田委員長)

(郷土資料が) どいているわけではないということですね。

例えば P10 の五項目は大変良く出来ていると思います。これから検討していくべき大事なことが盛り込まれていて、この中から具体的に考えていくということですよね。はい。

(酒井委員)

ですから改めて、このビジョンに繋がるコンセプトに、えらくアートに特化して見えてる感がある中に、一番最初にこの施設の三つの柱としてあった図書館、美術館、郷土資料館があったから、郷土資料館が文字的にもイメージ的にも地味なので、それは入れなくてもいいのかなって思っています。

(内田委員長)

今後、具体的な設計図なんかが出てきた時に、郷土資料のスペースをどれくらい確保するかに関係してきますよね。ここでしっかり謳われているかいらないかはね。その点、郷土資料が弱いんじゃないかということですが。

(ARG 岡本)

図書館の基本的な役割の話で、ここ「保存」があるんですが、「地域資料の保存」くらいに入れといたほうがいいのか。

今ちょっと瀬戸内市民図書館の基本構想を調べてたんですが、瀬戸内市民図書館は郷土資料についてそこまで書いてないですね。おそらく「郷土資料館資料」みたいに書き込んだ場合に、ボリュームが出るんで踏み切りにくかったんだと思います。構想をやった時点ではまだ郷土資料館が建ってましたので、そこも配慮があったんだと思います。

一方で美術館的資料のほうは実体を持ちますので、地域や郷土を学ぶ時に紙の本だけでいいのかという議論は当然出てきます。この先、点的に置かれている物をどうしていくか。新しい文化的施設でスルーということはないと思います。その辺はこのくらいに書くのを留めておいて、基本計画の時に、最終的なジャッジとして、美術館機能で提供する資料とは何か？ 図書館機能で提供する資料とはどこまでを言うのか？ そこを決めるというのが落とし所としてはいいと思います。

(林(伸)委員)

ちなみにですが、これからスケジュールを立てて建物を建てていくことになると思うんですが、今あるアクションプラン、幅が広いと思うんですね。全部が図書館の建築に関わることになると思うんだけど、去年くらいのペースでこれをこなしていくとなると結構大変だと思います。

役場側としてはここら辺にこれを建てたいというのがあれば、アクションプランの順番、重要視する部分は絞っていかないと。言ったこと全部盛り込んで直していくのは時間がかかると自分思うんです。

この図書館自体を早いこと建てたいのかどうなのかをちょっと聞きたいです。

(内田委員長)

ありがとうございます。

大まかなスケジュールは以前にお示ししておりますが。

(林(伸)委員)

その場合だと来年には建てる形にならないといけないんじゃないですか？

並行して平面図と、このプラン自体が行くような恰好になると思いますが、まずアクションプランが固まらないと。そのためのコンセプトだと思うんですが、コンセプト+アクションプランという形を取るのであれば、アクションプラン自体のクオリティを上げていくならですよ？ ある程度、設計する前の段階で決めておかないと、設計者が何回も設計し直さないといけない状態になるんじゃないでしょうか？

だから、できればスケジュール感覚をある程度持たないと。ただただ平行して前後するだけで全部が反映できない。

(事務局)

前回もお示ししましたが、今年度は基本構想。来年度は早い内に基本計画を立てまして、予定としては来年度中に設計業者を決めて、次の年度に基本設計・実施設計を合わせて行いたいと思います。そのあと建築。建築をするまでにサービス計画などを作りつつ、34年度に開設の予定となります。

専門家のご指摘はごもっともですが、基本計画の段階でもっとタイトなスケジュールを立てていかないととは思っています。

(内田委員長)

そこはもっとスピード感が必要かもしれません。全部を盛り込むのはなかなか行かない部分が出てきます。その優先順位もあるし、将来的なものも含めてということですね。大きなスケジュールは今言っていた通りですので、いずれにしても次年度はこれを踏まえた基本計画に力を入れることになるかと。

まあ、早い内にといいところは、ねえ。

(事務局)

そうですね。拙速に過ぎるところもありますが、まあ、早い内に決めたいと。

(ARG 岡本)

そういう意味では、次の計画に先送りすることは必要だと思います。

どこまでの細かさで物事を決めればいいのかは内容によっても変わります。

本を何冊置きたいか決めないとまずいけど、どのジャンルに特に力を入れたいかまで決めきらなくても、この規模なら大丈夫だと思います。何故ならば、1000平方メートルの図書館と仮定して、収納できる本は最大で約5万点です。一般的に5万冊収蔵できる図書館は開館時に35,000点くらいしか本は入れません。残りの15,000点はその後何十年かけて増やしていく。いきなり倉庫がフルの状態にしては意味がないので。そうすると開館までに新規に購入する図書って何千点かくらいなんですね。それなら準備期間が2年半あれば間に合います。これが10万点とかになると、最初にかなりきちんと決めておかないと苦労する。それはもうケースバイケースなので、今はここまでの精細さで決めておこう。今回これに関しては雑ぱくでいいじゃないか。ただし次の計画に明記しておいて先送りにして、計画の中でも、これについては別途定める××計画で協議する、というふうにして、忘れないようにさえしておけばいい。

(酒井委員)

できたらお願いしたいんですが、私も毎日毎日、図書館のことを考えてられる身ではないんで、次の会の時は一定こういうことを順序立ててとかいうのを先に提示していただけたら。それに対して計画も練っていきやすいし。

前に頂いた臨時スケジュール予定だと、ざっくりざっくりで、ここで何をするのかがさっぱり、想像もつかないので、大体分かっていたら「大体」を示していただいて、その「大体」が動くことを想定内として進めるんで。そうしたほうがイメージが湧きやすいんでお願いしたいんですけど。

(林(伸)委員)

あと、できれば計画に当たって、専門家の意見。今、岡本さんが言った内容は僕らにすごく大切だと思うんです。そういう部分を、貰えるようなら頂きたい。そういう方でなくても、第一線でやってる司書さんに意見も聞くとか、そういう形も取れたらもっといいものが出るのかなと思います。

(内田委員長)

それは委員会の進め方としてですか？

(林(伸)委員)

そうですね。勉強会みたいな。

(内田委員長)

分かりました。会の進め方も。毎回言われていますが。

(ARG 下吹越)

すいません。林さんがおっしゃった勉強会ですが、西ノ島町で実践しています。

その時はまだ委員会がありませんでしたが、関係する委員の皆さんとスタッフさんとひたすら打合せをやる。そのあと夕飯を挟んでから、いわゆるサポータークラブが集まるその日の夜に行き、そこで我々から簡単なプレゼンをしながら、全国の図書館を紹介しながら、町民の皆さんとカジュアルに話す。委員会ほど硬くなくて、サポータークラブも図書館の委員会の走りになるような形だったんですが、そういうことをやっていました。施設が建つ1年前からこれやっていたんですが、地元の方々がどんどんサポーターになっていった経緯もあるんですよ。まさにさっきの話でもうここからやっていけばいいんじゃないかとおっしゃっていたので、この委員会と組み合わせなら我々も行きますし、委員会だけでは閉じない場を作っていくのは非常に重要かと思います。

(酒井委員)

開かれた施設を作るんだから話し合いも開かれているべき？

(ARG 下吹越)

役場の作る場というよりは、まずはサポーター的な所からそういうのが出来ていくといいですね。

(内田委員長)

ありがとうございます。

一応今日の予定は基本構想を一定確定してパブリックコメントにかけて、そこからまたご意見を頂いて、多少修正したり、その意見を計画に反映させたりするわけですけども。

全体を確認しておきましょうか。

【ARG 下吹越より基本構想案の修正箇所を列挙】

(内田委員長)

ありがとうございます。

細かい箇所はいくらもお任せいただきますが、おおよそよろしいでしょうか？

事務局のほうもよろしいですか？

【事務局、異議なし】

(内田委員長)

再三申し上げておりますが、予定としてはこれで確認して、パブリックコメントに諮ります。

パブリックコメントが終わったら、さらにそこから整理したものを踏まえて、3月に次回の委員会を開きたいと思っています。3月16日でいかがでしょうか？

内容は、パブリックコメントの対応と、それを踏まえての次年度以降の基本計画を考える実質的な第一回になるかと思います。

(酒井委員)

失礼します。ここに皆さんがいらっしゃる内に。

図書館サポーターの会（仮名）に入ってくださいという方はこのノートに署名をお願いします。すいません。

(内田委員長)

いいえ、大事なことだと思います。

もう一つ皆さんにお諮りしたいですが、

- ・基本計画策定に向けて検討委員会の委員について引き続きおねがいしたい
- ・基本計画策定も引き続き ARG さんに（検討委員会としては）お願いできたらと思います
がどうでしょうか

【以上の件について検討委員会として異議なし】

(内田委員長)

また引き続きよろしくお願いいいたします。

(事務局)

パブリックコメントを集約して正式に出来上がった案は、校長会でお渡しして学校で広く見てもらおうように手配します。

- ・ その他

(内田委員長)

その他、ありますか？

【意見なし】

(内田委員長)

ではこれで会を閉じさせていただきたいと思います。

今日はありがとうございました。

3. 閉会